

（一社）広島県建築士事務所協会
青年部会長
沼田 健人 氏

世代間・教育界との「架け橋」に
育成の知見生かし業界発展へ

広島県建築士事務所協会の新青年部会長に、９月17日付で総合資格広島支店の沼田健人支店長が就任した。資格取得支援という立場から長年、学生や建設技術者の育成に携わってきた沼田新部会長。設計実務者ではない独自の視点を強みに、教育機関、企業、実務者のネットワークを広げ、広島の建築業界に新たな活力をもたらそうとしている。

同社からの青年部会長への就任は、今回が初めて。沼田氏は以前から青年部会の活動に深く関わり、特に学校訪問などを通じて教育機関と協会をつなぐ活動に尽力してきた。こうした次世代との接点づくりが評価され、今回の重責を担うこととなった。「尾立道泰前部会長（坂内建設社長）をはじめ、協会の諸先輩方が築いてこられた大切なつながりを受け継ぎ、建築業界を志す若い方を一人でも増やしたい」と、就任への強い意気込みを語る。

沼田氏が所属する総合資格は「建設技術者の育成を通じて、多くの人々が安心・安全に暮らせる社会の実現に貢献する」という企業理念を掲げる。沼田氏自身も日々、学校や企業でのセミナー、ガイダンスを通じて人材育成の最前線に立つ。設計実務を持たない立場だからこそ、特定の領域にとらわれず、学生からベテラン実務者まで幅広いステークホルダーとフラットに接することができるのが最大の強みだ。先人たちの豊富な知識や技術を次世代へとつなぎ、人材育成という側面から業界の発展に寄与していく構えを見せる。

また、若手建築士に求められる能力として「継続する力」の重要性を説く。技術の積み重ねにはキャリアを具体的に描きにくい現状を挙げる。多様な活躍の場がある建築の魅力を若い世代に伝えるため、地域を支えてきた熟練の建築士らとの交流のよりどころにしたいと考えている。

現在の広島の建築業界が抱える課題として、沼田氏は若手層が将来のイメージを持ちやすいよう、新しい知識の習得やベテランとの交流など「参加してプラスになる」企画をメンバー主体で運営する組織づくりを目指す。広島県建築士会や日本建築家協会（ＪＩＡ）といった他団体との垣根を越えた交流や、自身が持つ教育機関とのパイプを生かし、青年部会が「人と人との橋渡し役」となる青写真を描いている。

【ぬまた・けんと】
１９９０年生まれ、茨城県出身。南山大学卒。２０１５年に総合資格に入社し、26年４月より現職。「百錬成鋼」をモットーに掲げ、プライベートでは筋力トレーニングに励んでいる。